

橋本 私も同じで、最初から土木の世界に憧れていたわけではなく、もともとはパイロットになりたかったんです。パイロットというものは、大学の専攻が文系・理系のどちらでもいいのですが、パイロットになれなかつたときの第2候補として、何か大きいものを対象とする学科に行こうと、地球工学科に進みました。この学科では3年次に進級した時に土木・資源・衛生のいずれかのコースを選択します。先輩から「地球工学といえば土木だろ」と言われ、「そうですね」といつた軽い感じで土木を選びました。ですが、旅行中にはヨルダンとイスラエルとの国境に架かる橋に日の丸が付いていたのを見て、何て格好いいんだろうと感動しました。日本が建設に協力した橋でした。これは自分もつくることに

学生の頃に考えていましたことどどの
ようなギャップがありましたか？

て対応しているというのは、一般の方々にはなかなか分からないことではないでしょうか。それがゼネコンの特徴である多様性と言えるのかかもしれません。



橋本麻未（はしもとまみ）さん

橋本 私も同じで、最初から土木の世界に憧れていたわけではなく、もともとはパイロットになりたかったんです。パイロットというのは、大学の専攻が文系、理系のどちらでもいいのですが、パイロットになれなかつたときの第2候補として、何か大きいものを対象とする学科に行こうと、地球工学科に進みました。この学科では3年次に進級した時に土木資源衛生のいずれかのコースを選択します。先輩から「地球工学といえば土木だろ」と言われ、「そうですよね」といつた軽い感じで土木を選びました。ですが、旅行中にはヨルダンとイスラエルとの国境に架かる橋に日の丸が付いていたのを見て、何て格好いいんだろうと感動しました。日本が建設に協力した橋でした。これは自分もつくることに

私は、中学生から高校生にかけて、インテリア「リビング

ネーターや建築家になりたいと思っていたので、土木よりも建築の方に興味がありました。そんな時、家の近くで大規模な再開発事業が始まり、モノレールの建設工事を間近に見て、「土木の仕事って格好いい」と思ったことがきっかけとなりました。大学では、都市社会工学を学び、将来的に公務員やコンサルタントの立場で土木事業の計画や設計に取り組んでみたいと思った時期もありましたが、徐々に自分の手でものづくりをしてみたいと思った気持ちは高まり、ゼネコンに就職することにしました。



松本恵美 (まつもとえみ) さん

竹山 私はとにかく海が好きで、学生時代もよく海に行っています。でも、いまはもう、ゼネコンを選んでいました。

竹山佳奈（たけやまかな）さん

ましたが、入社前の頭の中には土木の設計という概念はありませんでした。設計と言えば建築のデザインというイメージが強かつたからかもしれません。会社に入つてみると、設計でも施工でも土木ではこんなに緻密なことをやっているのかと驚きました。もつと大ざっぱにガングンとつくっていくイメージを抱いていたのですが、まったく違っていました。自分の設計を基に構造物がつくられていくと思うと責任の重さを痛感しています。



五洋建設
土木本部環境事業部主任
水産学部資源育成学科卒
大学院修了、2004年入

松本 私は、初めて工事現場に出た時に、大勢の人の力で構造物がつくられていることに感動しました。現場では、施工のIT化も進んでいますが、コンクリートを打設することや、部材を組み立てていくためには人勢の人の力が必要となります。

ゼネコンでどのような仕事をしているのですか？

FOR STUDENTS」の第2回では、ゼネコンの土木関連部署で活躍する女性技術者による座談会を企画しました。3人が入社からこれまでに携わってきたのは現場での施工管理や構造物の設計、研究開発などヤモヤモ。そんな技術者としての経験だけでなく、仕事への思いやこれから夢などを語つてくれました。

女性技術者座談会

土木系女子は アクティブに！

取材協力：BISTRO&GALLERY ZO



松本恵美さん(奥村組)

橋本麻未さん(鹿島建設)

竹山佳奈さん(五洋建設)

竹山 私は大学の水産学部で生物について学びました。2004年に入社して技術研究所に配属となり、干潟や藻場の造成などについて研究していました。プライベートではその頃に結婚し、今は子供が二人います。会社では現在、土木本部環境事業部でさまざまな環境対策の業務を担当しているほか、大学と共同で干潟や藻場の造成に関する技術開発も進めています。

ゼネコンで働くことの魅力は何でしょうか？

竹山

やはり皆でやるということが大きな魅力だと思います。いろんな分野の専門家が協力して進んでいく世界です。一人ですとやる仕事ではありません。最適な方法を議論しながらつくっていく。それができたら社外の人たちも含めて皆で喜びを共有できる。人と接するのも楽しいですし、面白くて刺激的な仕事です。

橋本

皆で一つのものをつくり上げていくのは大きな魅力だと思います。土木構造物は完成すると様々な方が生活基盤として使われるものなので、例えば、トンネルの現場においてこれが完成したら新幹線が通るのだと考えると、大きなやりがいを感じます。

松本 私は、仕事が形になつて残ることだと

思います。



竹山さんはご主人とは職場結婚。週末に海釣りやスキーなどに家族で出かけるのが何よりも楽しみ。

橋本 そうですね。実際に

くら上げていく過程が見られます。私は建設プロジェクトに関わっている多くの方々を中心になってまとめていくのがゼネコンの技術者だと思つてるので、これにも大きなやりがいを感じています。

松本 手掛けた構造物が数

多くの人たちに使われることも建設業の大きな魅力です。先輩職員から「この高速道路やあの地下鉄は、おれがつくったんだ」と言われるたびに、「すごいなあ」とつくづく思つていました。また、一般の人たちが普段入れないところに入れることが魅力の一つだと思います。

橋本 そうそう、リア感がありますよね！

橋本 技術者というのは自分の引き出しを用意すればするほど、どこで線を引くかが難しい時があると思っています。例えば、ここまでなら効率は良いが、これ以上のことをやると効率が悪くなるかもしれないといったことがあります。

仕事で気を付けていることは何ですか。

橋本

した護岸の再生などで、人々が親しめる空間をどんどんつくりていきたいと思っています。私の子供は小学校1年生と3歳ですが、この子たちが気軽に海を楽しむのが現状です。家族で大好きな釣りを楽しめる場所を探すだけでも大変です。気軽に行ける海を都市の周辺にもっと増やしていくたいですね。

橋本 私も自分の強みを探しているところです。今は前向きに何でもやり、その中で強みを見つけていきたいですね。

橋本 仕事を続ける上では、ワークライフバランスも大事

です。会社で育児休暇を利用したのは、総合職の女性では

私が初めてでした。職場復帰するときは不安もありましたが、職場の方々や家族がフォローしてくれたので、本当に感謝しています。とにかく会社にいる時間はいかに効率よく仕事をするかを考え、工夫するようになりましたね。

先輩技術者として学生たちにアドバイスをお願いします。

竹山

就職は縁だと思っていました。私は土木とは異分野の出身ですが、就活ではいろいろな会社に行つてやりたいことを話していました。自分がやりたいことを明確にし、逆に「この会社ではそれができますか？」と聞いていました。そうして会社に入つてもやりたいことは絶対に曲げない方がいいと思います。私は就活をしてそれが見えてきました。何がやりたいかを真剣に考える機会が就活だと思います。

橋本 私は何でもやつてみたいタイプなので、逆にゼネコンに入つたら絶対にこれがやりたいというものはありませんでした。限られた自分の知識の中でやりたいことを限定するのではなくて、いろいろ経験してみようと思つています。実際に会社でいろいろなことをやってみると、何でも楽しい。就活でもゼネコンに行きたいとは考えていますが、いい機会なので新聞社や自動車メーカーなどいろいろな会社を訪問しました。そういう体験ができるのも学生の時だけなので、いろんな分野を見てほしいですね。

橋本 私は施工に携わりたいと思ってゼネコンに就職しましたが、それ以外に明確なビジョンを持ち合わせていませんでした。学生時代に、ゼネコンはこういう仕事をやっていると聞いていても、実際に就職して自分で経験しなければ分からぬことが数多くあるということを実感しています。

そこで皆さんには、やりたいことだけを考えて将来を決めてしまふことではもつたないと思いますので、できるだけ視野を広げ、さまざまなお仕事を接した上で、自分に適した最良の職業を見つけてもらいたいと思います。



松本さんは、大学時代は弓道部に所属。落ち着ける喫茶店を探し、ゆっくり本を読むのが好き。今年からテニスも始めた。



松本さんは施工に携わりたいと思ってゼネコンに就職しましたが、それ以外に明確なビジョンを持ち合わせていませんでした。学生時代に、ゼネコンはこういう仕事をやっていると聞いていても、実際に就職して自分で経験しなければ分からぬことが数多くあるということを実感しています。

そこで皆さんには、やりたいことだけを考えて将来を決めてしまふことではもつたないと思いますので、できるだけ視野を広げ、さまざまなお仕事を接した上で、自分に適した最良の職業を見つけてもらいたいと思います。



現場に勤務していた頃からランニング温泉やバイクでのツーリング休日はお出かけ。

